

令和2年度まちかどミーティング会議録

開催日 令和2年9月24日（木）

地区 植苗地区

会場 植苗ファミリーセンター

〈意見交換〉

○司会 続いて、意見交換の時間に移りたいと思います。

この時間は、町内会からの要望事項やテーマプレゼンテーションの内容のほか、地域の課題等に対する意見交換を中心に、遅くとも8時には終了するように進めてまいります。お時間に限りがございますので、お一人につき1件ずつ、3分以内を目安に簡潔にご発言いただきますようお願いいたします。

なお、町内全体に関わらないような個人的な要望や苦情等につきましては、まちかどミーティング終了後、個別にお話を伺わせていただくことにしますので、あらかじめご了承ください。

また、今年のまちかどミーティングは全体の人数を制限しておりますことから、市側の出席者につきましても例年よりかなり少なくなっております。そのため、ご意見の内容によりましては、本日、この場での回答が難しい場合もあろうかと思っておりますけれども、その場合には後日改めて対応いたしますので、よろしく願いいたします。

また、発言する際には、最初にお名前を述べてからご発言をお願いします。

最後に、繰り返しのお願いとなりますけれども、ご発言はお一人につき1件ずつ、3分以内を目安をお願いいたします。

それでは、ご意見のある方はマイクをお持ちしますので、挙手のほうをお願いします。

はい、どうぞ。今、マイクお持ちします。

◆市民 植苗在住の■■■■といます。町連のほうから質問させていただきたいと思います。

カヌーについてですけども、カヌーに関する事柄の2点について市の考えを伺いたいと思います。

新植苗橋の欄干には終着点と書かれた大きな横断幕が市により掲げていただきました。誠にありがとうございます。現在どうなっているかを確認のため、9月19日の昼から親水公園に行つて観察を行いました。午後3時24分に6隻のカヌーが親水公園の船着場に到着しました。そのとき、1そうが勘違いしたのか橋の近くのほうまで行き、そのとき、そっちじゃない、こっちと言って船を戻し、きちんと決まりを守っておりました。その人は植苗在住で、植苗小学校でカヌーの体験学習を行っていると聞いたので、学校に確認したところ、カヌー事業者のガイドだということが分かりました。

その後、午後4時21分に5隻のカヌーが到着しました。そのうちの2隻が親水公園で下船し、残りの3そうは午後4時23分に橋より下流に下っていきました。行き先は、■■■■が再三指摘しているところで、午後4時55分に子連れの客がその場に到着しました。この団体はアミュー

ズメント北海道が企画したものと思われます。このことを共通認識として伺います。

1つ目は、植苗町内会連合会では、ラムサール条約に登録され、バードサンクチュアリとして野生鳥獣の生息地の保全を目的としている場所、ここに人が入り、営利目的の事業を行うことは自然を守る立場からは許されないことだと考えていますが、市環境部の考えをお願いいたします。

2つ目は、複数のカヌー業者が営業を行っている中で、新植苗橋の終着点を守っている業者と守っていない業者があり、正直者がばかを見るような状況はいずれ不平不満が生まれます。きちっとした市の方針を出すべきではないでしょうか。以上です。

○司会 ただいまカヌーの件について2点、ご質問がございました。

市のほうから回答のほうをお願いします。

◎環境衛生部次長 私、環境衛生部の鈴木と申します。いつも町連の皆様には、ごみの関係、また環境の関係で大変お世話になっております。

ご要望のありましたカヌーに関わるラムサール条約、また、バードサンクチュアリに指定されるウトナイ湖の環境についての市の考え方というご質問だと思います。

ご質問の中にもありましたけども、ウトナイ湖につきましては、国設の鳥獣保護区ということに指定されてございます。また、平成3年にはラムサール条約の登録湿地ということで登録されてるということで、ウトナイ湖につきましては、様々な自然環境、それから、貴重な鳥獣類の生息環境として重要であるということでも市としても認識してございます。

カヌーの問題につきましては、なかなかルールを守ってくれないという実態があるということですけども、何とか利用者の方にもルールを守っていただければというふうに思っております。

環境面としては、今の大事な環境という認識はしてありますが、利用を規制するというものは今はない状況なんですけども、ウトナイ湖の大切さということにつきましては、つい先日も子供たちに漁業体験会という形で、内水面漁業組合の方にもご協力いただきましたけども、そういったことを市民の子供たちにも教育してるところでございまして。そういったことを、あそこの大切さというものは、自然の大切さですね、そういったものはこれからも子供たち、または市民に対して周知を図ってまいりたいというふうに考えてるところでございまして。ウトナイ湖の自然環境につきましてはそういうふうに考えております。以上です。

◎道路河川課長 都市建設部道路河川課の伊藤と申します。どうぞよろしく願いいたします。

私のほうからは、カヌーのルールの遵守についてご説明させていただきたいと思っております。

カヌー利用につきましては、これまで地域の方々から、例えば漁業への心配、それから野火の心配、そして、今ご質問にございました環境、野鳥等への環境への問題ということで、様々なご意見を、これまで利用制限に対するご要望をいただいているところでございまして。

今、ご質問にもありましたけども、現在、私どもが把握している、利用している事業者の数は3社ございます。そのうちの2社は新植苗橋から上流側で利用をさせていただいてると。残りの1社につきましては、その新植苗橋から下流に下ってるというのが現状でございまして。これまでの私たち、地域の皆様方からのご要望をカヌー事業者に対して何度もお伝えしてきたところでございまして。我々もこれで終わりということではなくて、私たち市にできることとして、地

域の皆様とカヌー事業者の調整役になって、今後も地域側の立場になって、この問題解決に向けて調整を進めていきたいというふうに考えております。

そして、やはり歴史的に価値ある河川、美々川でございますので、その自然を守ることが大事で、そして、それを守っていくということも大事だというふうに考えておりますので、今後も粘り強く協議を進めてまいりたいと考えております。以上でございます。

○司会 よろしかったでしょうか。

はい。

◆市民 まず1つ目なんですけれども、環境部からの回答ですが、自然の大切さを周知させていきたいということですが、これを、行動を規制するものは何もないということから、じゃあ、ここに人が入って営業をやってもいいということの判断だというふうにとってもよろしいのでしょうか。

それから、2つ目なんです、町内会と業者との調整を取っていきたいという話なんです。これはもう、しばらく期間がたってるんですけどね。このままずるずるいく、何かそういう気配がするんですけども、いつまでという期限は切れるんでしょうかね。

○司会 市のほうから回答のほう、お願いします。

◎道路河川課長 今、いつまでという、まず期限のほうから先にご回答をさせていただきたいと思えます。

いつまでって、例えば令和何年何月までというような具体的な時期というものは、今ちょっとこの場におきましては明確な時期ということは申し上げられないんですけども、やはり今後は、お時間が相当かかる問題だというふうに思いますけども、一歩ずつ、少しずつかもしれないけれども、粘り強く私どものほうから利用してる事業者に対して、地域の声というものをしっかり届けてまいりたいというふうに考えております。以上です。

◎環境衛生部次長 自然保護区域内でのそういったカヌー等の利用の規制という部分につきましては、今、私の把握してる限りではそういった規制はないというふうに確認しております。ただ、そういった利用をしていく中で、例えば鳥獣に危害を加える、または、あそこで営んでる漁業に危害を加える、そういった迷惑行為はあってはならないというふうに考えております。以上です。

○司会 どうぞ。今、マイクをお持ちします。

◆市民 今の答弁を伺いますと、この地域のことを一つも考えてない。鳥は平和の象徴と言って、鉄砲で撃たれないようになれば幾らでも集まってくる。去年の11月に北海道、鈴木知事が、苫小牧があれだけIRに対して一生懸命やって、この地区に言われて、私も植苗地区と言われて、植苗をつかさどる者の一人として植苗地域住民に、皆さんにお話ししたら、ぜひ、IRを誘致してほしいということでもあります。ですけども、今言われているカヌー問題は、もう七、八年たつんでないかな、始まってから。それ、何回言っても、この1業者だけが申しないで、9そうから8そうぐらいの船を湖畔のところに終着域を設けて、植苗の今の新しい橋より下がれないことに苫小牧市の環境課さんは横幕まで張って、誰が見ても分かるようにしてても、それでも下へ下がっていく。

それに対して今の答弁、何ですか。そんな柔らかいもので今の世の中の人には動かないんだ。も

っともつこの植苗で非常に困るから、担当者が一生懸命勉強して、あの地行って写真まで撮ってきてる。あしたから現場へ行って見てちょうだい。今の答弁は駄目だ、そんな答弁では。もつと答弁者は大きい声で言って、何も聞こえないよ。せつかくやる以上は、やっぱり植苗が見本になるように頑張るってちょうだいって言うのは、白鳥湖は、40年前は、あの湖が、50町ある湖が真っ白になるだけ白鳥がいたもの。それが、あそこでレガッタをやるようになってから1羽も今はいませんよ。だから、今のウトナイのラムサール条約も日本で2番目にラムサールを締結してもらった。大下助役さんのときに随分反対者もあったけども、私が協力させてもらうように植苗の皆様いろいろな説得しながら苦小牧市の考えに協力してさしあげ、それがために植苗の今の道の駅のそばに環境センターもできてるし、全てつくることに植苗の住民の人方が協力してる。

ただ、このカヌーだけ、何でこんなものを許可した。植苗の人が許可したんじゃないよ、苦小牧市だよ。心してよく調べてごらん。これは我々植苗じゃない。それも今の答弁なんだよ、あんな。そんな答弁は駄目だ。もう少しはっきりした答弁を皆さん大きい声で言ってちょうだい。終わります。

○司会 市のほうから回答のほう、お願いします。

◆市民 この業者は辞めさせないと駄目だ。もうお金もうけにやってるんだよ、よく調べて。明日現場へ行ってごらん。中途半端な答弁であります。

◎環境衛生部次長 カヌーの問題につきましては、7年から8年の懸案事項であるというふうに認識しておりますので、改めて環境サイドからも、そういった地域の声というものをしっかり届けさせていたいただきたいと思います。よろしくをお願いします。

○司会 この件につきましては、以上でよろしいでしょうか。

それでは、ほかにございますか。

はい、どうぞ。今、マイクをお持ちします。

◆市民 私は植苗在住の■■■■と申します。自分の思ったことをちょっと質問させていただきます。

まず、藻刈りの件に関してですね。自分は藻刈りには一度も出席したことはないんですけども、新植苗橋から見ると、町内会でやった場合は植苗橋の上側、今ちょっと浅瀬みたくなってるんだけど、そこにヨシやなんかが生えてて、ちょっと見苦しいなというような、藻や何かもありますよね。植苗町内会でやったときには、あそこまで皆さんが藻狩りやってくれていたんですよ。それでも今は植苗やめて、その後、草がどんどん大きくなってきてるので、そういう状態のまま、これからずっと草やなんか生やしておくのでしょうか、苦小牧市といたしましては、この件に関してちょっとお聞きしたいなと思います。

○司会 ただいま新植苗橋の近くの藻刈りの件でご質問ございました。市のほうから回答のほう、お願いします。

◎道路河川課長 都市建設部の伊藤です。よろしくお願いいいたします。

今、新植苗橋から上流の浅瀬のところの藻刈りのご質問をいただきました。ありがとうございます。

新植苗橋から上流といいますと、美々川の本流のお話かなというふうにお聞きしておりました。

こちらの河川はご承知の方も多いかと思うんですけども、こちらの河川につきましては、北海道が管理している河川、いわゆる二級河川という言い方をするんですけども、になっております。たしか私の記憶では平成の25年、それから翌年の26年と、もう一つは29年ですか、のほうに藻刈りというものを実施してるところでございますけども、あれからもう、29年を最後に、考えれば3年、約4年近く経過するということがございますので、あと、今のご質問の中に、作業が汚いだとか、もっと丁寧に刈るべきじゃないかというようなご指摘もございますので、これは私どものほうから河川管理者である北海道に対しまして、今後そういうことがないように丁寧な作業をしっかりと対応していただくように、私どものほうから、今ご質問があった地域の声というものを届けてまいりたいと考えております。よろしくお願いいたします。

○司会 よろしかったですか。

◆市民 はい。

○司会 ほかにございますか。

はい、どうぞ。今、マイクをお持ちします。

◆市民 それでは、植苗南町内会の[]です。これを質問するという私の役目なんで、質問したいと思います。

市長さん、1年に1回ミーティングに来ていただいてありがとうございます。

ちょっとPRをして、植苗はゼロゴミをやる前から市の町内に、3年前変わりましたかね、ごみのとこ。自前で鉄の亜鉛メッキのごみボックスを作りまして、カラス被害等々のないように。自然の宝庫な植苗ですから、3年ぐらいかかったかもしれません、一遍にできませんので。そういうことをいち早く取り組んでいました。

今日、私に与えられたのは空港関連の30枠の関係で防音工事です。まだかなりの件数がやられてないのかなと思います。30枠はもう5年以上たちました。振興策が道営住宅ですけども、同じく防音工事と一緒にやるということでありました。ただ、聞くところによりますと、9対1、千歳が9で苫小牧が1。ただ、地域の人がそんなことは誰も知ってるわけじゃないわけです。それで、昨年からは高齢者を優先に防音工事をする。ところがいろんなことを言って、その高齢者も対象外になってしまったり、また、私は職場が千歳なんで、今、千歳ではコロナだから後にしてくれという方もいらっしゃる中で、まだ植苗は待っててもいつ頃なるんですかと、役所の答弁もちょっとひどいなと思う。いつになるか分からない。こんなことでは30枠の機能強化を調印したときの趣旨からかなり外れますし、苫小牧は通常3点セットと言われる枠数、防音工事、振興策、これを同時にやっていくということを我々は認めたつもりなんです。

だから今、何件をやったのか、千歳と比べてどういうことになってるのか、何年まで苫小牧はやろうとしてるのか。それを具体的に言わないと、地域の方は高齢の方もいて、申し込んだら外れちゃう。いつになるか分からない。回答はいつ頃ですかって言ったら、分からないねと言われてるような状況であります。だから、どのくらいやった件数、いつまでやるのと。千歳は多分、防音工事がメインですから苫小牧とは全く違うと思います。だから、苫小牧は苫小牧で北海道にかなり強く言っていたかかないと、この防音工事は進まないのかなと思っております。

あんまり1人で何回も言うことできないんで、言いますけども、先ほどのカヌーです。これは植苗に、経過だけ言いますよ。親水公園の要望をしたんです。そのとき、市長さんがいるんで、これ、ちょっと言いたくないんだけど。持ってきたのは、そこにカヌーポートをつけて持ってきたんですよ。植苗で誰がカヌーやるのと言ったんですけども、何とかそれを、カヌーポートを、そして上の上流から、それも許可もらってるしつくらせてくれて。これ持ってきたのは苫小牧市なんですよ、地域が頼んだものではないんですよ。それで、これだけ苦労して自然を守ってきたのがこの地域なんだけども、営業目的にしてる人にさんざんな目に遭ってるのが今現状なんです。

だから、すべからく、我々が要望して、それに対してはやっぱり地域住民で守っていかなくやなりませんけども、このカヌー問題は自然破壊につながっています。枝は勝手に切る、ルールは守らない。これを何とかいち早くしてもらわないと、今度火事になって、今、春先、今度はみんな消防団の人たちが出ていって消さなくやならない。過去にたくさんありました。だから我々、この年になりまして過去のことを言うようになったんですから、もう年なんですけども、現実はそのような状況です。

ただ、私に与えられたのは防音工事ですから、これを明確に答えてほしいんですよ。曖昧な、いつだとか、分からないだとか、そんなのは我々に通用しないと思います。だから千歳が何件あるのと、苫小牧どのぐらいなのと。だけど千歳も予算を返上したときがあるんですよ。そういうときは苫小牧、優先的にやってもらうとか、北海道に強く言ってほしいんですよ。全然スピード感がないんですね。だから、いつだとか、いつまでできるということをはっきり言ってほしいんですよ。今できなければ文書回答でも結構です。以上です。

○司会 防音工事の件につきまして、市のほうから回答のほう、お願いします。

◎空港政策課長 苫小牧市空港政策課の伊藤と申します。ご質問ありがとうございます。防音工事の件につきまして、私のほうからご回答いたします。

もっとスピーディーに多くの工事をやってほしいというような趣旨だったと思いますけれども、本市におけます令和元年度までの住宅防音工事の実績につきましては、防音工事の意向がある世帯、365世帯のうち、工事実施済みの住宅が117世帯、実施率にいたしまして32.1%ということになっております。対しまして千歳市ですけれども、22.1%ということになっておりまして、千歳市と比べますと、分母が違えど上回ってはおりますけれども、スピード感が足りないという点につきましては、■■■■さんの思いと私は同じでございます。

住宅防音工事につきましては、航空機騒音の影響の大きな地域や高齢者、乳幼児、障害者の方がお住まいの世帯などを優先して実施できるように、それぞれ評点をして計画的に工事を進めてきているところでございます。

また、先ほど■■■■さんからもございましたが、昨年からは本来の優先順位による工事を進めながら、特に高齢の方を優先する高齢者優先枠というものを千歳市と苫小牧市合わせて10世帯分設定して、今、実施をしているところでございます。防音工事を早く進めてほしいという声につきましては以前からいただいておりまして、市としても認識しているところでございます。

今後につきましても、北海道や財団などと連携しまして迅速に、より多くの工事に着手できるように、これ、北海道にも強く私どものほう求めながら、いつまでやるのかというお話につきましては、今この場では、ちょっと申し訳ございません、明確にお答えはできませんけれども、この辺ですね、財団、北海道と、我々も北海道と財団に対しても強く申し上げますので、ひとつご理解のほどをよろしく願いをいたします。以上です。

◆市民 もうこれでやめますけども、これでご理解はいただけません。私はこの地域の代表で航空機騒音の役もやらせていただいています。約束なんですよ。30枠やったときの約束が振興策、防音工事をやる。まだ半分できてないんですよ。地域振興策の道営住宅、半分ちょっとになりましたか。だけど、去年の地域協議会で建設計画示されてるんですよ。こんなんでは全然……。去年からもうやろうとしてないんです。土地買ってませんから建たないですよ。私は今、防音工事のほうだけですけど、振興策も一緒です、これ、セットですから。

やるやるたつて土地も買ってないところに建たないんですよ、道営住宅は。そして地盤のところに土盛りもして、何か月か後に建設進める。伊藤課長も熱心なんですよ、ちゃんと千歳の件数も言わなきゃ駄目ですよ。何年か後に分からないだから、これ、20年たつてもやらないのかもしれない。まだ半分行ってませんからね、防音工事。納得ができないですよ、これ。

苫小牧市の問題だけでないんですよ。北海道に強く言ってもらわんとどうしようもないんですよ。このままだから飛行機飛ばないからやらない、約束が全然違いますよ。一回調印して約束したこと守れないんなら、きちっとしたルール、説明してもらわなきゃ駄目です。こんなことでは納得できません。もう僕、これ、次はしませんけども、千歳の数をまず言ってください。それになかったら、こんな曖昧なので何%ですよなんてごまかしたら駄目だ。はっきりしてください。以上です。

◎空港政策課長 千歳市の件数、数でございますけれども、千歳市につきましては、意向調査の回答につきましましては2,487世帯ございまして、そのうち工事の実施済みの件数につきましましては551世帯というふうになっておりまして、実施率、先ほど言いますけど、22.1%ということの数でございます。

今、 さんのほうからもありましたけれども、枠数、それから住宅防音対策、それから地域振興対策、これ、3点セットで30枠調印をしましたけれども、地域振興対策、それから住宅防音対策につきましまして、我々も一緒に連携してやっていきますけれども、改めて強く北海道のほうに求めていきたいというふうに思っておりますので、ご理解をよろしく願いいたします。

○司会 ほかにございますか。

はい、どうぞ。

◆市民 植苗町内会の と申します。

先ほどのゼロごみ活動の中で、減量作戦が素晴らしい成果を上げたという市長からのお話がありました。それで私、日頃ちょっと気になったんで、さっきお話聞いて気になったことがありました。気になってることがありまして、ゼロごみ作戦というのは、こちらはすごく成果を出していると。もう一方で、片やごみを捨てる人がいるということがあります。私も車、ドライバーな

んで、ほとんどの方はドライバーの方だと思います、一部の方がね。ごみ、春先なんかびっくりしましたね、道端にコンビニの弁当とかね、弁当がレジ袋に包んでぼおんと投げてあったり、缶コーヒーとか、ひどいのはビール缶とかどンドン投げてますよね。がっかりするんですけども。

これを私、提案なんですけども、市で啓蒙活動、これ、すばらしいと思います。一方で、私、運転免許を更新に行くときに講習会ありますよね。あそこで交通安全協会の方が、ポイ捨ての低減活動を強く皆さんに訴えられるというのがいいんじゃないかということをおもいましたので、私としては提案としていかがかなということなんです。以上です。

○司会 ただいま、ドライバーが道路沿いに捨てるごみのことについてご提案ありましたけれども、市のほうから回答のほう、お願いします。

◎環境衛生部次長 環境衛生部の鈴木と申します。

ゼロごみ大作戦に関わりまして、ごみのポイ捨て対策のご提案というところで、いろいろ今までもポイ捨て対策、市のほうも取り組んでるわけなんですけども、ドライバーさんのマナー、モラルになかなか浸透しないという部分がありまして、ただいまご提案いただきました免許更新時の交通安全協会の講習ですね。こちらのほう、今後、早急にちょっと先方のほうと打ち合わせさせていただいて、できればそういったところで、ドライバーのマナー向上という形で訴えることもちょっと考えていきたいと思っております。どうもありがとうございます。

◆市民 ぜひお願いします。

○司会 ほかにございますか。まだお時間のほうございますが。

はい、どうぞ。

◆市民 南町内会に住んでおります■■■■と申します。

しつこいようなんですけども、カヌーの問題で私のほうから一つ質問させていただきたいんですけども。以前、まちかどミーティングで私もカヌー問題について質問、市の見解を聞いたことがあります。もう何年もの懸案事項でずるずると来ているんですけども、先ほどうちの■■■■もおっしゃったとおり、何か市の答弁、態度、考え方が、いまいちここに住んでいる住民として地域に伝わってこない。本気でやる気で作っているのか。ただ懸案事項としてずるずると延ばしてるの。一体全体、相手の業者とどのような接触をして、どういう働きかけをして、何を何回ぐらいやってどうなったか。その辺ちょっとご説明いただきたいと思っております。お願いします。

○司会 カヌーの問題につきまして、これまで相手業者とどういったような交渉を続けてきたのかというご質問です。市のほうから回答をお願いします。

◎都市建設部長 都市建設部長をしております栗野と申します。よろしくお願いたします。いつも都市建設行政にご理解とご協力をいただいておりますこと、この場をお借りしましてお礼を申し上げます。

今、これまでずっとお話ありましたカヌーの問題でございますけれども、これにつきましては以前からご指摘のとおり、長年ご要望をいただいて、なかなか実績としてお示ししてきてないことは非常に申し訳ないというふうに思っております。ご承知のとおり、この河川につきましては、河川法では自由使用という扱いになってるものですから、なかなか法律的に打つ手がないと

いうところが正直なところでございまして、これは道の河川ということでございますけれども、我々は市の弁護士を通じて何かいい方法がないかというのを相談しながらこれまで取り組んできたところでございます。

先ほど■■■■さんからもお話ありました横断幕も、内容につきましては弁護士さんともお話しした中で、ああいった方策、あるいは内容をやってきたところでございます。それで毎年、アミューズメント北海道さんに対して、我々も協議、要望をお伝えに行ってるところではございますけれども、一時期は新規ルートで、今、橋の下をくぐってるんですけど、もうちょっと上流のほうでできないのかということでご提案をさせていただいて、一時期、試験的にやった時期もあったわけですが、なかなかそれが、そういった形でやっていただけないというこれまでの経過もございまして。なかなか、本当に実態が伴わなくて大変申し訳ないんですけど、我々としては、今いろんなことを考える中で対応をちょっとさせていただいてきてるところで、相手がちょっといることでございますので、なかなかうまくいかない部分もございまして、引き続き地域の方のご意向というのを、先ほど、これも■■■■さんからお話ありましたように、正直者がばかを見てはまずいと思いますので、しっかりその辺は相手方と交渉させていただきたいなと思っておりますので、ご理解のほどお願いいたします。

○司会 よろしいですか。

◆市民 いや、よろしくないよ。全然よろしくないよ。

はい、すみません。いいですか。

おっしゃってることはよく分かるんです。駄目なものであれば法律的に規制がない、私どもそれは承知しております。だから何もできないんじゃないかと、今、町内会もそうですし、市もやっていたらいいんですけど、その中で、もう何年も、何回もこの地域からこの懸案事項が出てくるということは、それだけみんなが関心を持って、みんなが困ってる問題なんです。年に1回のまちかどミーティングだけで答弁するんじゃないかと、もっと市も折衝して、相手の出方、話しても駄目だった、弁護士立てても駄目だったとか、いろんなことをこっちに情報を入れてくれないと、どこまで進んで、やってるのかやってないのか。市が駄目だということであれば、うちら連中で、役員会で、じゃあ、町連として弁護士立てようとか、そういう議題も出るんですよ。どういった方法がいいのかとか。そういう、ほら、いろいろな情報交換をもっと密にしてもらって、年1回のまちかどミーティングだけで、来て、答えして、懸案事項でまた1年、また来年出ますよ、間違いなく。その辺をよろしくお願ひしたいと。すみませんけど、よろしくお願ひします。

○司会 続けていきますか、どうぞ。

◆市民 美沢町内会の■■■■です。

このカヌーのことについては■■■■とともに、公園にカヌー乗り場ができてから、もう4年も5年もずっと頼まれてやってきました。その中で、我々ウトナイ湖で漁業権を持って漁をやってるんですよ。あと美々川一帯かけて。その中で木を切って、小型トラックに、あんだ、7台から8台ぐらいの木を流してるんですよ。それ、市のほうに写真撮って渡してるのにもかかわらず、そ

の現場にも行ってみない。川口から100メートル超えたところに枝がみんな沈んでるんですよ、生木で。みんな網かければ、みんな網にかかっちゃうわけ。そういう状況の中で注意をしてきてるですよ。

そうしたら弁護士から手紙来ましたよ。これ以上妨害するんなら裁判へかけますって。裁判にかけて結構ですよ。私たちは入ってきたものに対してお客さんに怒ってるんじゃないですよと云ってるの。木を流すから、我々は漁業権を持ってやってる以上は許すことできませんよという、やるんならやってくださいということを私、弁護士に言って、これからは、去年、おととしから、あの垂れ幕つけてからでも行ってるから、行ってみたくれって言うから行っても、私は組合員として話をしてるんであって、植苗の橋を超えてきたから駄目だよって言うんじゃないくて、お客さんにはご理解してくださいって言ったら、お客さんのほうが食ってかかっていますよ、業者に。

あそこに書いてることをしたら本当だって言うんだったら、なぜそこから来るんですか、あんた方は。この人が怒るのは当たり前だって言われましたよ、私。それから私は行ってません。でも、昨日行ってきました。4台しか泊まってないというカヌーが9そうも泊まってる。あれは河川用地ですか、地主のものですか、どこの名義になってるんですか、聞かせてください。河川用地ですか、あれ。

○司会 回答のほう、お願いします。

◎都市建設部長 大変申し訳ございません。場所がちょっと正確にどういう部分を言われてるのか、今の説明でちょっと認識できてございませんので、そこは、場所をちょっとご確認させていただいた上で、どこの用地か……。

◆市民 それなら、さっき言うのは無理ないわ。あれは河川用地ですよ。河川用地だったら元の美々川ですからね。当然、道のもんです。けども、カヌーの置ける人は地主から借りてるって云ってるんです。地主から借りてるんだったら河川用地を貸すわけにいかないから地主がやられるわけでしょう、そういうことでしょう。

◎都市建設部長 ちょっと私の記憶で……。

◆市民 それ調べてないというのかおかしいでしょう。今だからこういうことになってるから。

◎都市建設部長 申し訳ございません。一応、その降り場みたいなどころがあると思うんですよ。川を下った後にアミューズメント……。

◆市民 だから、あなた方は下ったことあるの。

◎都市建設部長 下ってはおりませんが……。

◆市民 下らなきゃ分からないですわ。

◎都市建設部長 申し訳ありません。

◆市民 場所は把握していますよね。

◎都市建設部長 川岸は行って、現地は確認してございますので。

◆市民 場所の地図とか写真とかは渡してあったら。

◎都市建設部長 ええ、そうです、そうです。

◆市民 案内してるから分かるのは当たり前だと思うよ。何回も市の人を案内してるよ。

◎都市建設部長 はい、そうです。

それで、まず先に、お話ありました協議の過程については、今後、逐次お話をさせていただきたいというふうに考えてございますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

◆市民 せっかく■■■■さんが、ああいつて、立派な垂れ幕してくれたんだから、それでもう入らないだろうって会長は思つとる。それを無視してね。

◎都市建設部長 無視して、はい、はい、はい。それは我々も同じ思ひで。

◆市民 弁護士もね、それつきり来ませんよ、私のところに、通知が。

◎都市建設部長 地域の皆様がご迷惑しているのは十分に認識してございますし、我々も、それを破つてこうやってやられてることに對しては非常に残念に思つてますので、それはしつかり今後も。

◆市民 分かんなかったら案内してあげるからおいでよ。

◎都市建設部長 以前に■■■■さんに写真を頂いて。

◆市民 やつたよ。

◎都市建設部長 それで、どういふ草の状況かといふのも以前にいただいてございまして。

◆市民 あんただか誰かは分からんけども、ひどいなって、あんた言つてたじゃない。

◎都市建設部長 それで、一応現状は、船には乗つてないですけども確認はさせていたいただいでいるところでございまして。それで……。

◆市民 あれから6年もしていながら……駄目だよ。

◎都市建設部長 大変申し訳ないです。すみません。

なんで、できるだけ地域の方……。

◆市民 忙しいことは分かるけど。

◎都市建設部長 いえいえ。地域の方のご迷惑にならないように我々としてはできるだけ早く解決したといふところは、思ひは本当にありますので、何とかそれが相手方に通じるように、結果が伴うように。

◆市民 とにかくそれね、河川用地なのか、持ち主がいるのかだけ教えてちょうだい。

◎都市建設部長 分かりました。

◆市民 そうじゃなかったらけんかできないから、はっきり言うけど。

◎都市建設部長 分かりました、はい。場所については、後ほどちょっと改めてご確認をさせていただきますと思ひますので。

◆市民 うちら漁業組合の人間があそこでエビ捕りやつてたら、ちっちゃい小屋建ててただけど、道から立ち退き命令言われて、あれされましたよ。あれから100メートルもいかないところでやつてただけど。

○司会 この辺でよろしいですかね、この件につきましては、時間もあれなので、また改めて場所も確認させていただきます、情報交換も密にしていくといふようなご答弁だったと思ひますので、改めてご相談させていただきますと思ひますので、よろしいですかね。

ほかにございますか。ないようであれば、意見交換の時間は終了させていただきますけれども、よろしいですかね。

◆市民 まだちょっと物足りないようでございますけれども、何か終わりの挨拶をすれというんですけども、やっぱり今日は市長さんも副市長さんもおいでになってメモってくださってるようですが、何とかこのカヌーの問題だけは解決できるように、私も測量士を使って、あの場所は河川敷地であるかないかは確認したいと思っております。

どうか植苗地区は非常に環境にも恵まれていますけれども、昔のアイヌ民族がこの地をこよなく愛してくれて、石狩川まで渡るために御前水のところから渡ったようですけども、そのぐらいこの美々川は大切な川です。だから藻刈りもさせないところはなくて、させないでなく、ある役員が我々に何にも相談もしないで4年前に断ってしまった。ですけども、この藻刈りは何としても、市長さん、植苗地区にやらせてもらわないと、苫小牧市が供用する川が6本あります。6本あるのにまだ2本の川もちゃんと藻刈りやってきてません。それではこの地区としては、先ほどの苫小牧のごみ問題で非常に鮮明に説明もいただいたし、我々もごみの選別に対して協力もさせてもらってます。それと同じように、植苗の環境も、この植苗・美沢の人方が守らないと苫小牧にも笑われる状態になります。

だから、鈴木知事は鳥がいるからって、鳥は平和の象徴ですから、人が何にも、鉄砲を向けたりしないところにはどんな鳥でも集まってきます。だから、あの奥にゴルフ場ができてから、あの大ワシやなんか移動したんです。それを逆に考えてる。これは報道の方もよく心して書いてほしいと思います。鳥は平和の象徴ですから、必ず人の危害を加えないところには集まってくれます。それで私も、せっかく市長さんがIRに対してあんなに一生懸命なのに市議員さんはさっぱり見てない。市議員は半分多いから動かない。私はそう思ってます。

何かフランスでは3分の1ぐらい全部削るようなことを、昨日11時のニュースで言っていましたね。だから、そうなるのを心しながら、今日は皆さんが本当に心ゆくまで発言できたかどうかよく分かりませんが、藻刈りは植苗にやらせてもらうことを心からお願いを申し上げて終わりにさせていただきます。どうも市長さん、ありがとうございました。（拍手）

◎市長 ありがとうございます。

○司会 最後に、本日のまちかどミーティングの終了に当たり、岩倉市長よりご挨拶させていただきます。

◎市長 いろいろご意見、ご指摘いただきましたというよりも、毎年同じようなご指摘で大変申し訳ないなと思っております。

一つは、やはり枠の拡大に伴う約束事については、我々苫小牧市としては地域の皆さんたちと同じ立場でございますので、約束どおりしっかりと粛々と進めていけるように、私自身も道のほうのそれなりのレベルで、そういう住民の、植苗の皆さんの声はしっかりと伝えていかなきゃいかんというふうに思っております。

もう一つは、やはりカヌーの問題です。これも毎年のように同じようなご指摘であります。同じようなことで市のほうが今まで何年もかかってやってるのに解決できない。同じようなやり方で解決できなかったら、やっぱりやり方を変えていく。それでもなかなか、これ、法律をベースにしてできることではないし、苫小牧市は捜査権を持っているわけではない。しかし、地域の皆

さんの思い、声をしっかりと3者のうちの1者に伝えていくというやり方について、本当に同じようなことで毎年、何年かに一度選手替えるだけでいいのかどうかということも含めて、今日は福原副市長が来ております。この問題について内部でプロジェクトチームをつくって、福原副市長をトップといっても、これ、皆さん、例えば環境の問題ということになると担当ではないわけだよね。これ、縦割りがあから、これはいいチャンスだなと。

環境部の担当はもう一人の副市長なんですね。だけど、全体の植苗の問題は主に福原副市長がこれまでもあれしてまますので、そういう担当でないということに関係なく、福原副市長をトップに今日の現場の声を聞いておりますし、毎年、彼がここ出席しておりますので、ちょっとプロジェクトチームをつくって、今までと違ったアプローチをその業者さんにしてみて、それでも動くかどうかは分かりません。しかし、やっぱり別な努力をしていくということを地域の皆さんともその都度、情報共有、情報交換をしながらやっていくしかないなと。千歳の業者というふう聞いておりますが、場合によたら私も直接会って、そういう地域の皆さんの思い、あるいは苫小牧市としての考え方、あるいは要請というものをやっていかなきゃいかんなど。全くやるなど言ってるわけではなくて、ちゃんとルールを守れということでもありますので、そのことについては時間をかけずに。特にこれから冬場でありますからカヌーに乗る方も少なくなっていく時期でもありますので、そういうときにしっかりと来年度に向けた苫小牧市としての思い、考え方を伝えたい上で、相手の反応を見ていきたいなというふうに思っておりますので。

今日、これは約束します。ここにいる福原副市長をトップにプロジェクトチームをつくって、毎回、2回アプローチしただけでは、これ、無理だと思います。今までの長い間の経過がありますから。ちょっとお時間をいただきますが、その都度、ご報告をしながら進めていきたいなと。それで少しドアが開いてくれればいいなというふうには思っておりますけれども、これはもう毎年同じようなことで本当に申し訳ないというふうには思いますけれども、ちゃんと3社のうち2社は一定程度ルールを守ってやっている現実があるわけでもありますので、そのことを今日、皆さん方にお伝えしたいと。

最後になります、藻刈りの問題でありますけれども、これについても様々な経過があった問題であります。■■■■の最後のご挨拶の中でも触れておりましたけれども、そういう思いを市のほうとしても前向きに捉えて、今後どうしていくのか、早急に時間をかけずに方針を立てていきたいなというふうに考えておりますが、これ、役所のこと、道の河川でしようとかなんとかいろいろあって、なかなか外から見ると分かりづらい点がありますけれども、やはり地域住民の皆さんは、それは国の問題であれ道の問題であれ、やっぱり身近な市に声を伝えていくということになっていきますので、特に道路とか河川の問題はそういうことが多いんですが、これについても、これまでの経過がある問題でありますので、担当、今日来ておりますので、しっかりとそういう方向に、また、戻すたらおかしいですけども、いろいろ関係者を含めて総合的に判断していきたいということをお約束したいなというふうに思います。以上、3点、今日大変気になったこと、私なりの思いをお話しさせていただきました。

問題はスピード感なんです。もう役所はとろい。私自身もそういうことを感じております。今

までの延長線上ではなくて、本当にスピード感を持ってやっていく姿勢でないと、もう21世紀は市民の皆さん、住民の皆さんに伝わらない、そういう時代なんだということを含めて、チャレンジしてやって、できないこともあります。できないときはその都度、その経過さえお知らせしていれば一定程度ご理解をいただくことあるかと思しますので、そういうアプローチの仕方というものをこの植苗地区についてはちょっと考え直してやっていきたいなというふうなことを思いながら、やり取りを聞いておりました。

ぜひ、ああ、そうかと。あのとき市長言ってたけど、ちょっと変わったなと思っていただけるように、今日、関係者もみんな聞いてますので、いいか。そういう思いでやっていきますので、ぜひ経過を見守っていただきたいなというふうに思います。

最後までお付き合いいただきました。ちょうど8時であります。改めて、重ねて御礼を申し上げます、ご挨拶に代えさせていただきます。ありがとうございました。（拍手）

○司会 以上をもちまして、まちかどミーティングを閉会いたします。

ご帰宅後には手洗い、うがいを徹底していただきますようよろしくお願いいたします。

本日は誠にありがとうございました。